

## 演題 17. NSTにおける栄養評価項目の検討

○日色順子 中嶋宏介 石毛久恵 布施義也 土井裕一  
高橋英則（総合病院国保旭中央病院）

【目的】 当院では平成 16 年 4 月より栄養サポートチーム (NST) が発足し、平成 17 年 5 月より病棟回診を行い、患者個々に応じた栄養指導を実施している。栄養評価指標にはアルブミン (Alb) を用い入院患者の栄養評価を行なっている。今回我々は、栄養状態を評価する Alb と CRP、プレアルブミン (PA)、総コレステロール (T-CHO)、コリンエステラーゼ (CHE)、総リッパ数 (TLC) との関連性、NST 介入前後における各指標の変化について検討したので報告する。【対象および方法】 2007 年 5 月～8 月に NST が介入し、栄養改善を試みた 30 例 (男女各 15 名、年齢 47～93 平均年齢 71.9 歳、平均介入日数 16.2 日) を対象とした。Alb と他項目の介入期間における測定値の変化と Alb と他項目の関連性について検討した。また栄養投与ルートで消化管投与群と非投与群に区分し、介入前後の測定値の変化を検討した。【結果】 患者毎の各測定値の変化を平均 CV で示すと Alb 9.34/PA 24.88/CHE 15.08/CRP 170.33/T-CHO 13.26/TLC 30.8 であった。Alb と各項目関連性検討では回帰式と相関係数は、CRP  $y = -3.05x + 12.45$   $r = 0.30$ /PA  $y = 6.42x - 4.83$   $r = 0.67$ /CHE  $y = 66.71x - 54.94$   $r = 0.64$ /T-CHO  $y = 49.22x - 0.61$   $r = 0.56$ /TLC  $y = 140.71x + 0.88$   $r = 0.11$  であった。栄養投与ルートで静脈栄養投与群と経管栄養投与群での比較では経管栄養投与群は TLC  $1373 \text{ } \mu\text{l}$  に対し、静脈栄養投与群は  $745 \text{ } \mu\text{l}$  と有意に ( $p = 0.05$ ) に低かった。また各指標項目における測定値の変化は静脈栄養投与群に対し、経管栄養投与群は大きく改善した。【まとめ】 栄養評価項目について検討した。Alb と CRP は負の相関、他項目は正の相関を示した。介入による測定値の変化が大きい項目は CRP・TLC・PA・CHE・T-CHO・Alb の順であった。静脈栄養投与群は経管栄養投与群と比較すると TLC が減少し CRP 以外の項目は改善に時間を要した。短期の栄養評価は検査項目を組み合わせて観察することで、患者の栄養状態を把握し易いと思われた。(0479-63-8111)